



3-151R6G-00-01

日本ペイント株式会社

製品使用説明書

ニッペ ファインシリコンフレッシュII

超低汚染形ターペン2液形アクリルシリコン樹脂塗料

□ 規格表示
□ 特長

JIS A6909 建築用仕上塗材 可とう形改修塗材E/RE、複層塗材E/RE 上塗材 耐候形1種

- ・弱溶剤系であるため、臭気がマイルドで、下地を選ばずに塗装できます。
- ・耐汚染性にすぐれています。
- ・防藻・防かび機能があります。
- ・つや有りはJIS A 6021建築用塗膜防水材アクリルゴム系「ニッペ DANエクセル中塗」の上塗りとして適用できます。

□ 塗料性状

塗料液 (主剤)		硬化剤				
色		無色				
密度(g/cm ³)(23℃)		1.14 (混合液)				
光沢		つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り				
引火点		38℃				
発火点		190℃ (参考値)				
消防法表示	化学名	合成樹脂エナメル塗料				
	危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)				
	危険物等級	III (火気厳禁)				
有機溶剤区分		第3種				
毒劇物表示		—				
有害物表示		—				
ホルムアルデヒド放散等級	登録(認証)番号	2110029				
区分表示		F☆☆☆☆				
問合せ先		http://www.nsk-web.org/				
国連指針番号		1263/128				
環境性能	クロルピリス	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トリイソシアネート	配合せず
	キシレン	0.6%	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	0.2%
	スチレン(モノマー)	0.1%未満	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラカン	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイアゾニウム	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず
	フェノールカルボン酸	配合せず	鉛	配合せず		
	T V O C	29.5%				

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

□ 調色適応

つや有り			7分つや有り			5分つや有り			3分つや有り			つや消し		
淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩	淡彩	中彩	濃彩
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×

・使用原色の種類、隠蔽性の関係上、目的の色相、つやに調整できない場合があります。

□ 塗装基準

混合：2液形のため、「塗料液(主剤)：硬化剤=7：1(重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。

荷姿：16kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤=14kg：2kg)、3.2kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤=2.8kg：0.4kg)

ポットライフ：6時間(23℃)

希釈剤：塗料用シンナーA

塗装方法：

塗装方法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希釈率	0～10%	5～10%
使用量	0.12～0.14kg/m ² /回	0.12～0.14kg/m ² /回

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾燥時間：

	5～10℃	23℃	30℃
指触乾燥	1時間	20分	10分
塗り重ね乾燥	8時間以上	4時間以上	3時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 特記事項

- ・「3～7分つや有り仕上げ」の場合、上塗りの1回目に「つや有り」、2回目に「3～7分つや有り」をご使用ください。
- ・本塗料は、優れた性能を発揮させるために、非常に敏感で強固な反応するように設計されています。水やアルコール類が混入しないようにしてください。また空気中に含まれた水分や湿気とも敏感に反応します。必ず密栓し、0℃～40℃未満に保てる冷暗所に保管してください。
- ・蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整（目粗し）を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
- ・脆弱層が下地調整で除去しきれない場合や劣化の著しい下地の場合は適用を避けてください。また、吸込みの大きい下地への施工に際しては、使用量は濡れ感が出るまでを目安にし、必ず試験施工にて付着性を確認してください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
- ・塗料液と硬化剤の混合は、電動攪拌機などで均一になるまで行ってください。
- ・貯水槽などで藻の発生を抑制するために遮光性能を必要とする場合は、下塗りおよび上塗りともに規定の使用量をおまもりください。使用量が不足すると遮光性能が低下しますのでご注意ください。なお、塗装することにより太陽光の透過を完全に遮断するものではありません。一部の太陽光が透過していても規定の使用量がまもられていれば、十分に藻の発生の抑制効果が得られます。
- ・つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- ・つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- ・過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- ・つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- ・つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- ・防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- ・被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- ・塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- ・塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・旧塗膜が塗料用シンナーで容易に溶解するつや有り塗料の場合は、縮みや膨れが発生するおそれがあるため、塗装は避けてください。弱溶剤1液形塗料や水性塗料での塗り替えをお奨めします。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなうおそれがあります。
- ・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご確認ください。
- ・シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
- ・旧塗膜の種類が不明の場合には必ず試験施工で適性を確認してください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200）などで処理してください。（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください。）
- ・内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ・塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認下さい。
- ・濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- ・濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認の上、ご使用ください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・クロスの上の塗装は避けてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品

□ 注 意 事 項

- では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。 やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
 - ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
 - ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。